

連続講座「紫式部の平安京」第1回

紫式部がみた平安京

ー特別展示『紫式部の平安京』に寄せてー

イ ウンジン
京都市考古資料館 李 銀眞

はじめに

『源氏物語』の作家である紫式部が生まれ育ち、生涯を過ごした平安京。紫式部が生きた時代は、延暦 13 年（794）に平安京が建都された約 200 年後、藤原氏が摂政・関白として、政権を掌握した摂関政治の最盛期にあたります。『源氏物語』は中宮彰子に仕えた紫式部が、藤原道長の庇護を受けつつ、宮廷社会を舞台に平安貴族の内実を優艶に描き出したものです。

紫式部が生きた、この時期の平安貴族の生活はどのようなものであったのか。今回の展示では、地中から見つかっている発掘調査の成果に基づき、その実像の一端を紹介しています。『源氏物語』の中心舞台である内裏、藤原道長・頼通の時代を中心とする、紫式部や藤原氏にかかわる京都の遺跡・遺物、また『源氏物語』に登場する「斎宮」の邸宅、光源氏のモデルになった源融の邸宅跡と推定される遺跡の発掘調査成果を展示しています。

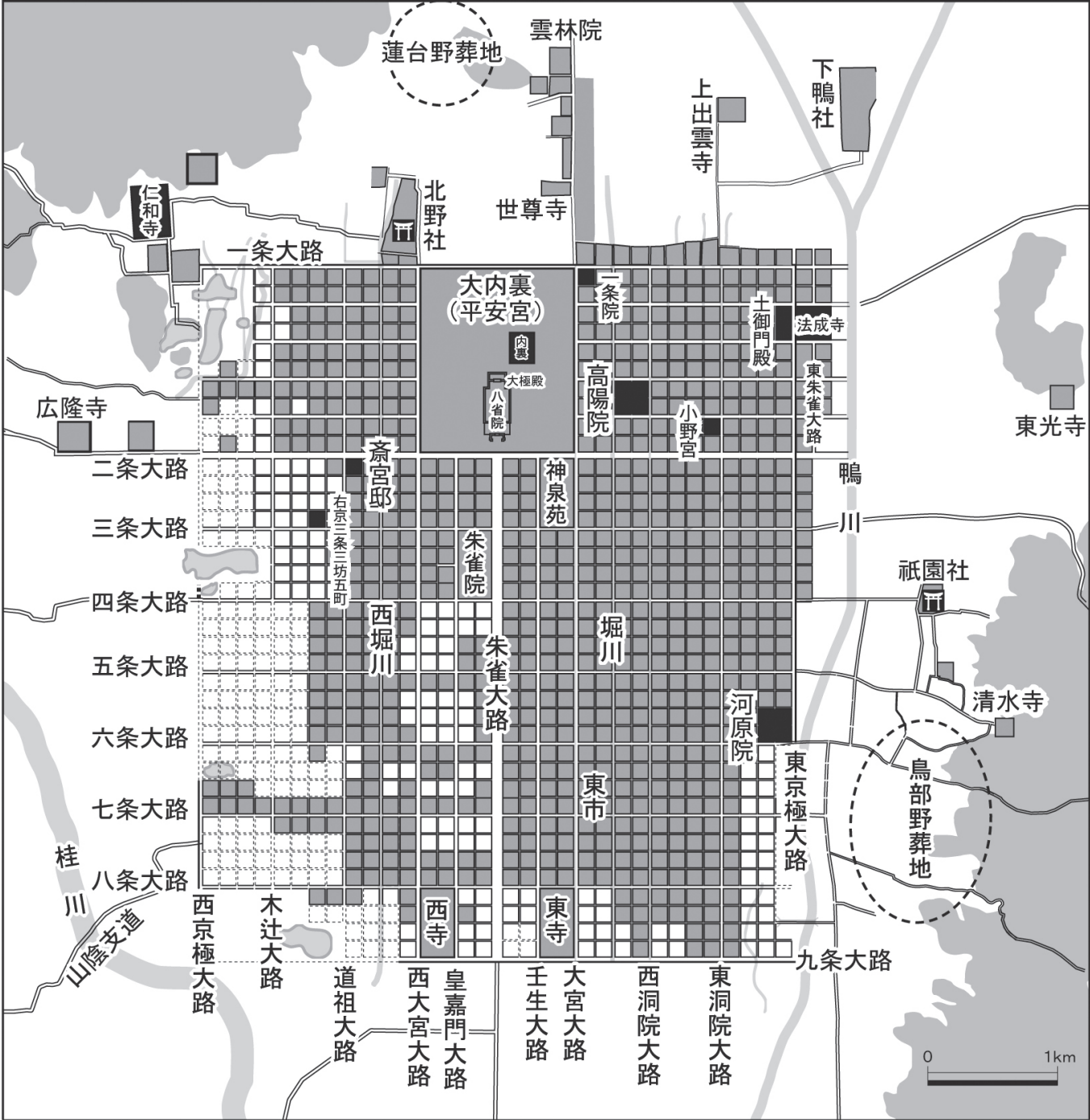


図 1 遺跡の分布図（原図：山田邦和氏作成に一部加筆）

和暦	西暦	紫式部関連の出来事	天皇と藤原家関連の出来事	天皇
天徳4年	960		内裏初めて焼亡。	村上
康保3年	966		藤原道長誕生。	
康保4年	967		藤原実頼が関白になる。	
安和2年	969		安和の変	冷泉
天禄元年	970	この頃、紫式部誕生か。	藤原伊尹が摂政となる。	円融
天元元年	978		藤原兼家の娘、円融天皇に入内する。	
正暦元年	990		藤原兼家没。藤原道隆の娘定子、一条天皇の中宮になる。実資、小野宮を改造。	一条
正暦3年	992		道長の長男頼通が誕生。	
長徳2年	996	父為時が越前守に就任、一緒に越前国へ下向。		
長徳4年	998	春頃、越前より帰京。藤原宣孝と結婚。		
長保元年	999	娘の賢子を出産。	道長の娘彰子、一条天皇の女御になる。	
長保2年	1000		藤原定子が皇后、彰子が中宮になる。	
長保3年	1001	夫の宣孝と死別。『源氏物語』執筆開始。		
寛弘2年	1005	中宮彰子に出仕。		
寛弘5年	1008		彰子、敦成親王（後の後一条天皇）を出産。	
寛弘6年	1009		彰子、敦良親王（後の後朱雀天皇）を出産。	
寛弘7年	1010	『紫式部日記』が完成。		三条
長和元年	1012		道長の娘妍子が三条天皇の中宮となる。	
長和3年	1014	この頃、紫式部没か。		
長和5年	1016		後一条天皇即位。道長、摂政となる。	後一条
寛仁元年	1017		道長が摂政を辞め、太政大臣となる。子の頼通が摂政となる。	
寛仁2年	1018		道長、太政大臣を辞任。妍子が皇太后、道長の娘威子が後一条天皇の中宮となる。	
寛仁3年	1019		道長出家。	
寛仁4年	1020		道長、無量寿院を建てる。	
治安元年	1021		頼通、高陽院を完成。	
治安2年	1022		道長、無量寿院を法成寺に改める。	
万寿2年	1025		藤原嬉子、親仁親王（後の後冷泉天皇）を出産。	
万寿4年	1027		道長、法成寺の阿弥陀堂にて死去。	

表 1 関連略年表

1. 夕暮れに琴をひく紫式部

風の涼しき夕暮、聞きよからぬひとり琴をかき鳴らしては、嘆き加はると聞き知る人やあらむと、ゆゆしくなどおぼえはべるこそ、をこにもあはれにもはべりけれ。

さるは、あやしう黒みすすけたる曹司に箏の琴、和琴、調べながら心に入れて、雨降る日、琴柱倒せなどと言ひはべらぬままに塵つもりて、寄せ立てたりし厨子と柱とのほざまに首さし入れつつ、琵琶も左右に立ててはべり。

『紫式部日記』一部抜粋

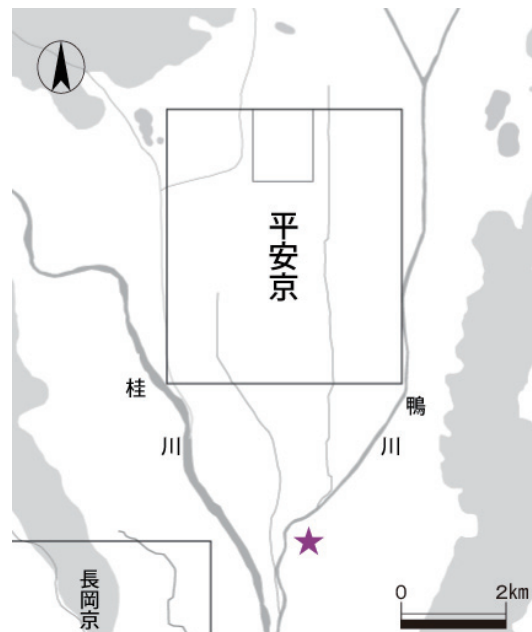


図1 和琴の出土地点



図2 和琴の出土状況



図3 鳥羽離宮跡出土和琴



1



2

1. 右京三条一坊六町跡
—西三条遺跡—出土
2. 右京八条二坊二町出土

図5 琴柱



図4 鳥羽離宮跡出土和琴の尾部と頭部、身部

2. 内裏、火災に見舞われる帝の邸宅

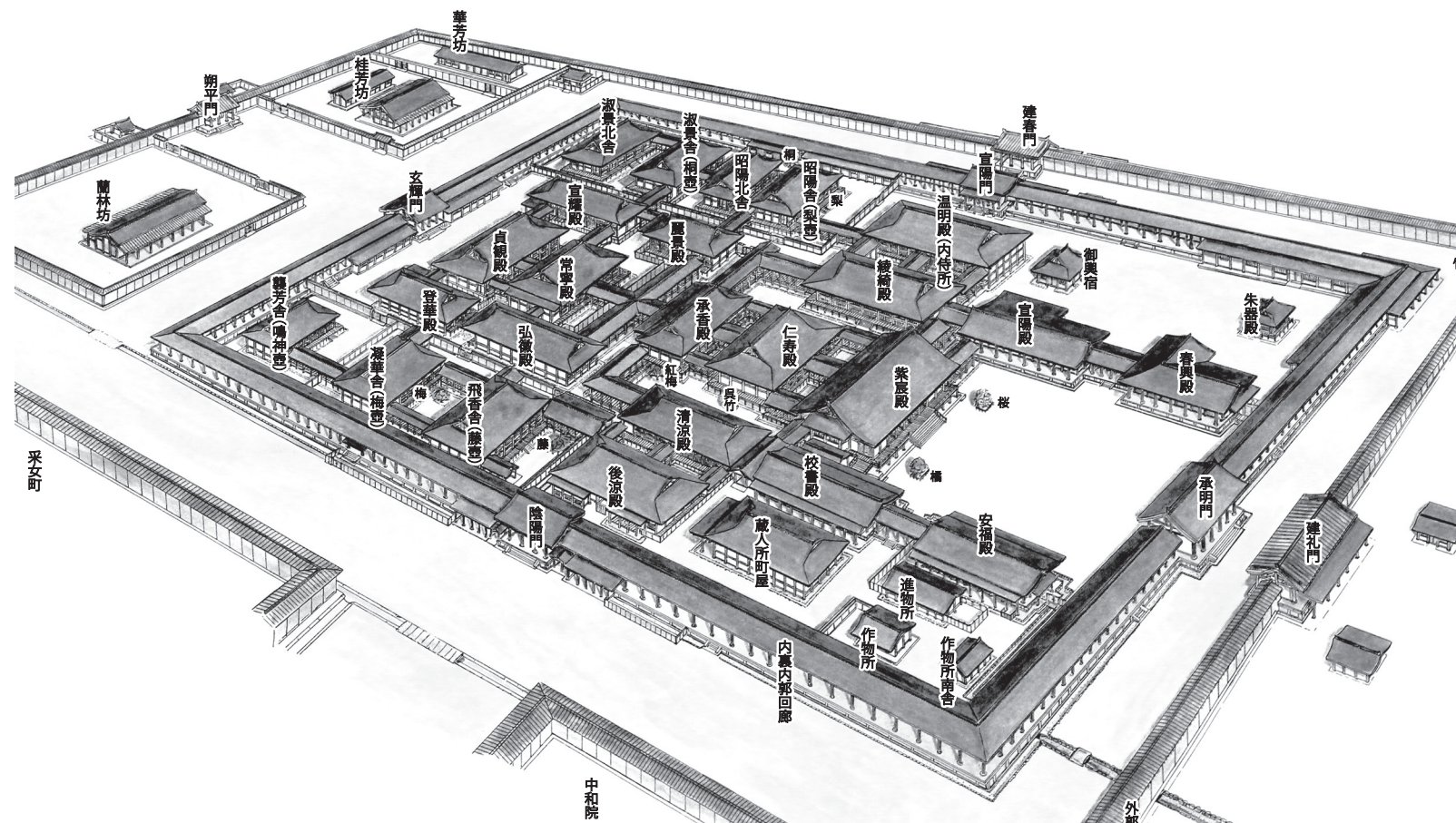


図6 内裏の復元図（原図：梶川敏夫氏作）

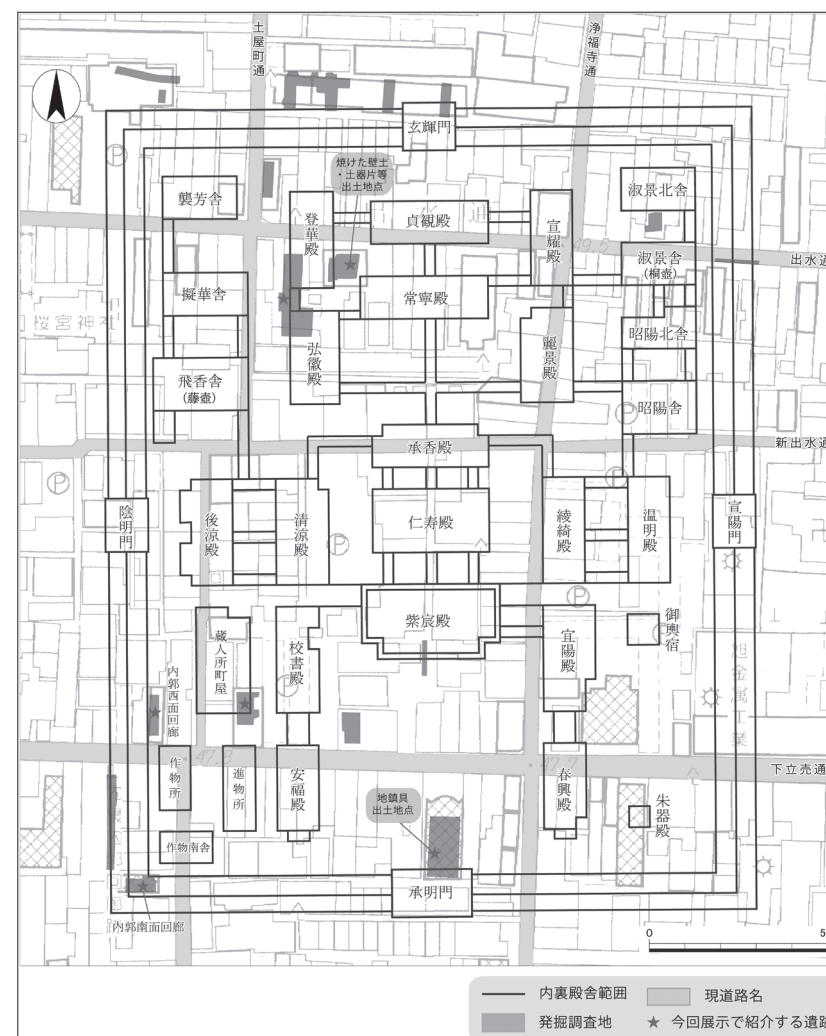


図7 内裏の発掘調査地点図



図8 天徳4年（960）に焼けた内裏の建物の壁土



図9 登華殿跡から出土した火災で焼けた土器類

3. 貴族の邸宅

【資料3】

1) 高陽院－藤原頼通の邸宅

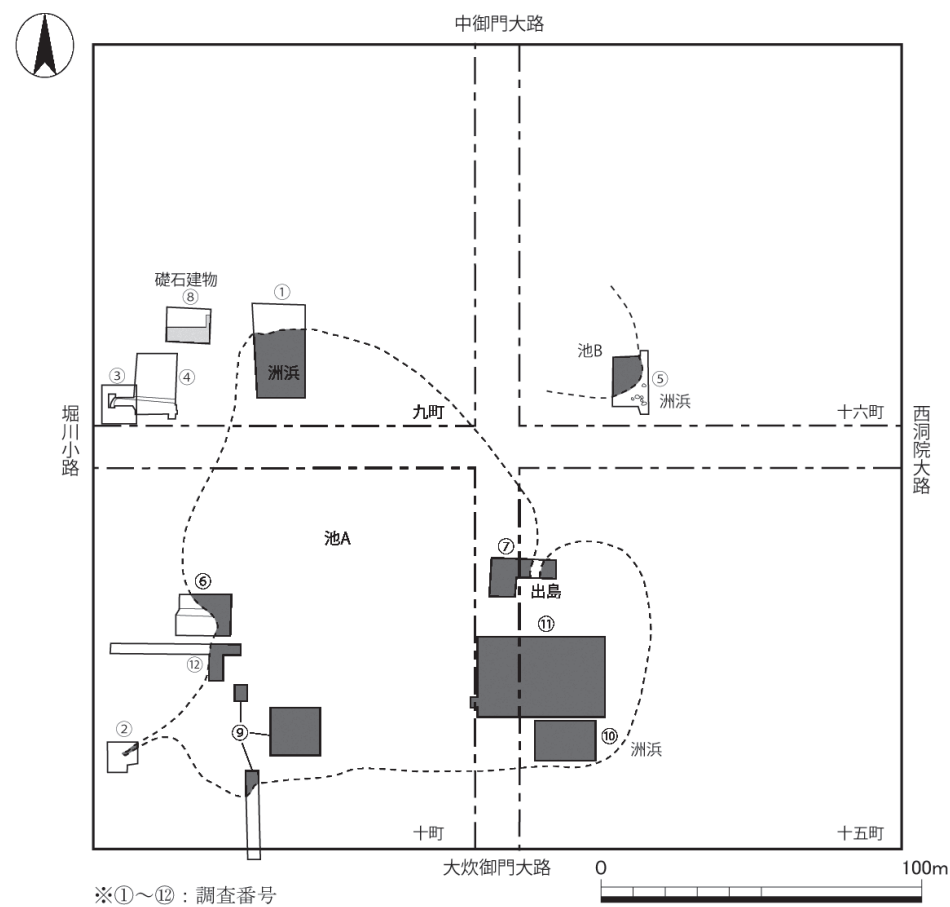


図10 頼通時代の高陽院跡 遺構配置図



図11 高陽院池の地業（1次調査）（北から）



図13 高陽院の礎石建物跡（8次調査）（南西から）



図12 高陽院池の洲浜（5次調査）（北から）



図14 高陽院池の出島と景石（7次調査）（北から）

2) 小野宮－藤原実頼の邸宅

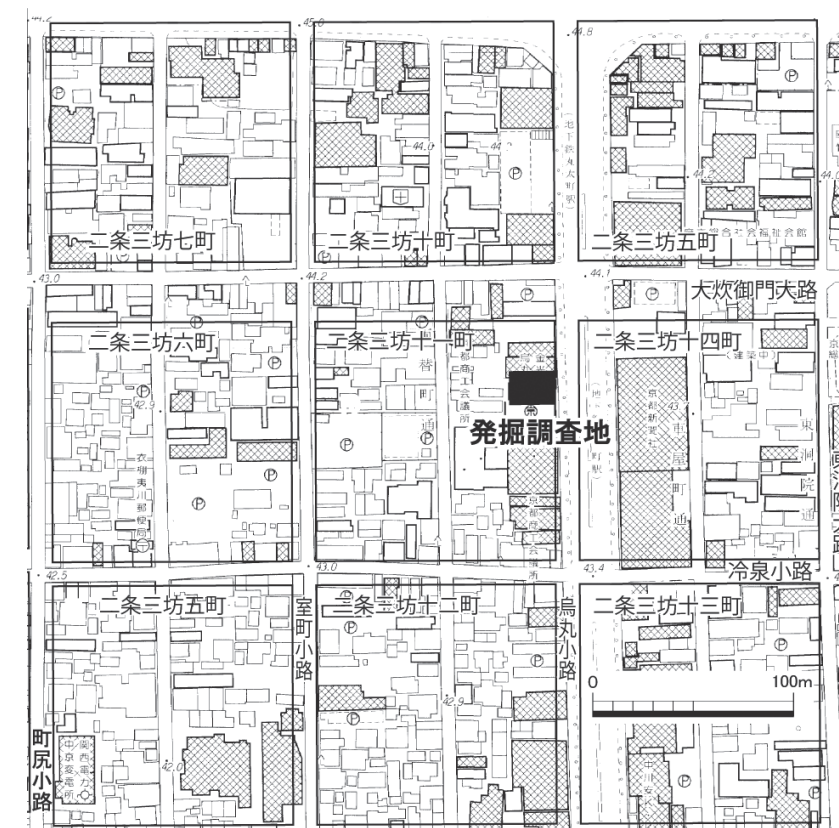


図15 小野宮跡の発掘調査地

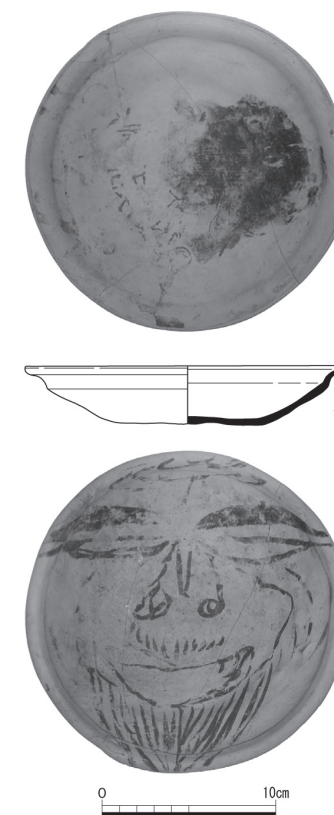


図16 小野宮池跡出土の人面墨書土器（画像提供：（株）アルケス）

3) 土御門殿－藤原道長の邸宅

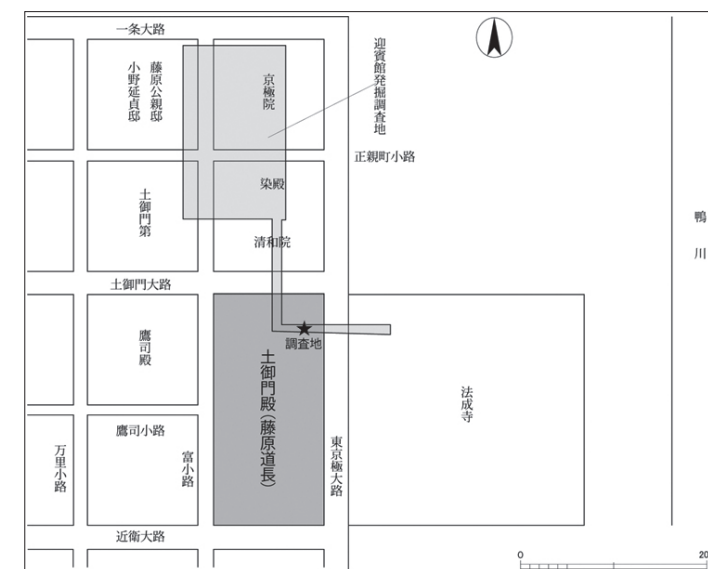


図17 土御門殿池跡の発掘調査地

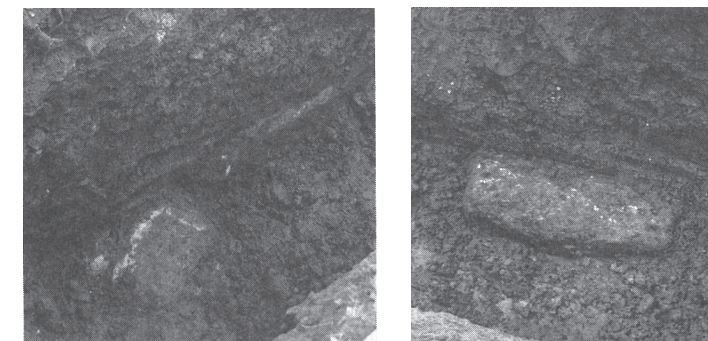


図18 土御門殿池跡の景石



図19 土御門殿池跡出土の土師器皿



図20 左京北辺四坊五町跡出土の白色土器

4. 紫式部ゆかりの寺院

1) 仁和寺

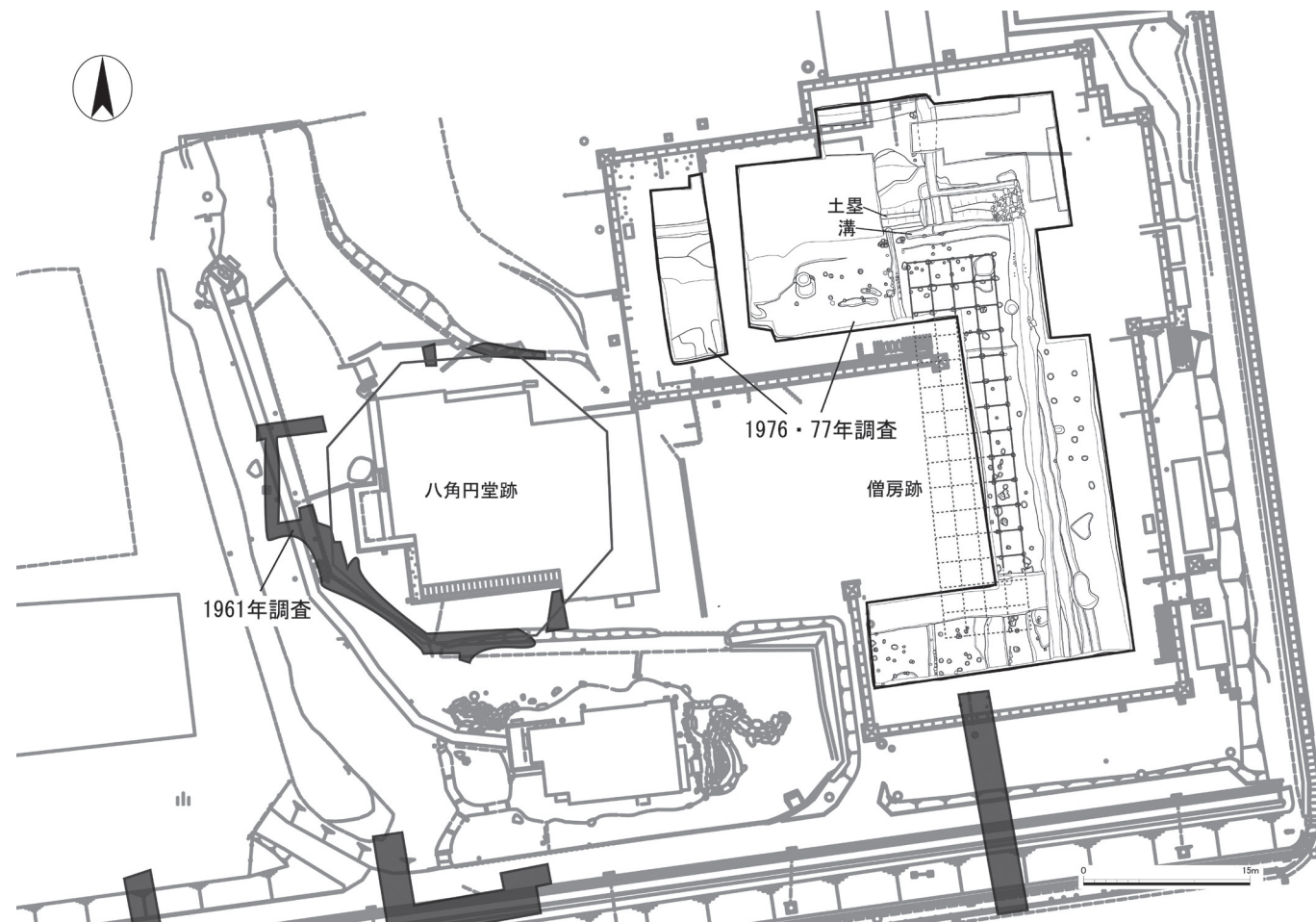


図 21 仁和寺円堂院地区発掘調査位置図



図 22 仁和寺の円堂院僧房建物跡と雨落溝（北から）



図 23 仁和寺の土塁と溝（北東から）

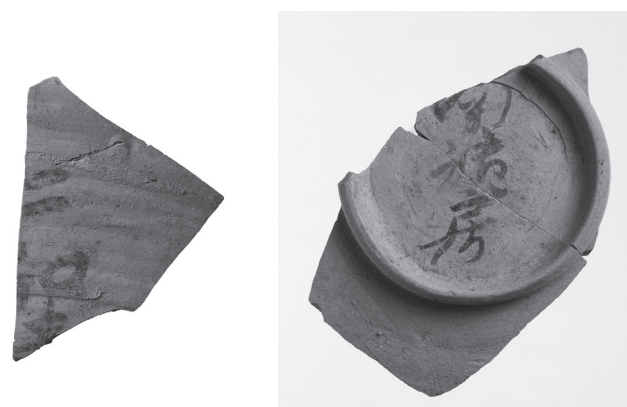


図 24 「仁和寺」墨書土器 図 25 「南御房」墨書土器



図 26 緑釉軒丸瓦・軒平瓦

2) 法成寺

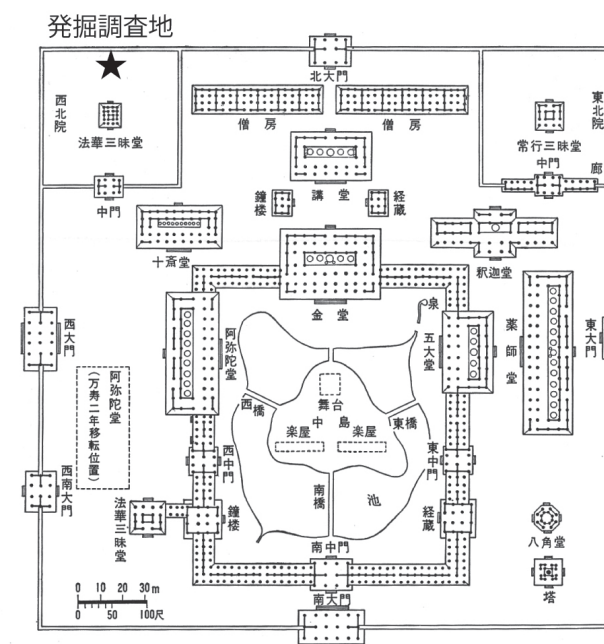


図 27 法成寺伽藍推定配置図
(福山敏男氏作図を修正加筆)



図 29 梨木神社境内の調査区全景（北東から）
(画像提供：古代文化調査会)

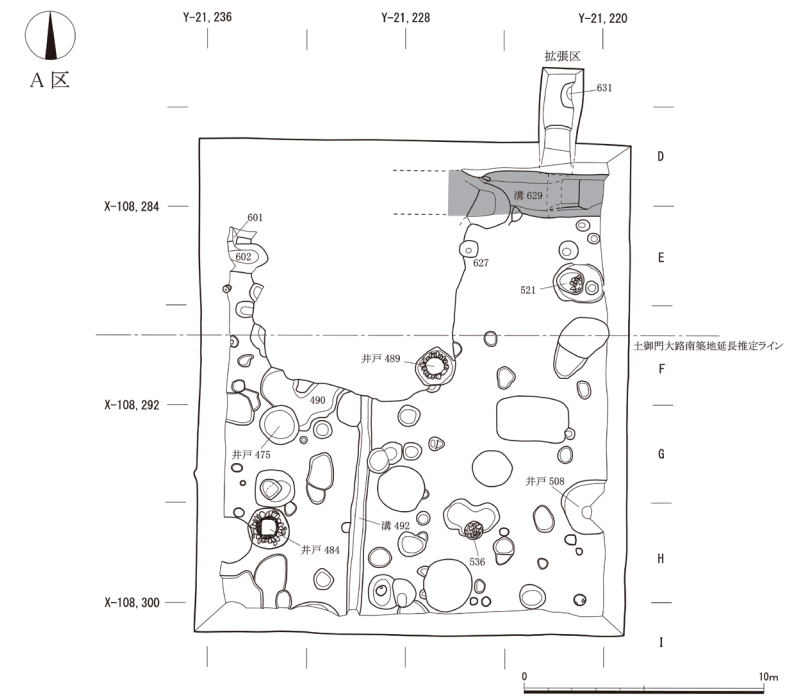


図 28 梨木神社境内の法成寺遺構平面図
(画像提供：古代文化調査会)



図 30 井戸跡の土器出土状況（東から）
(画像提供：古代文化調査会)

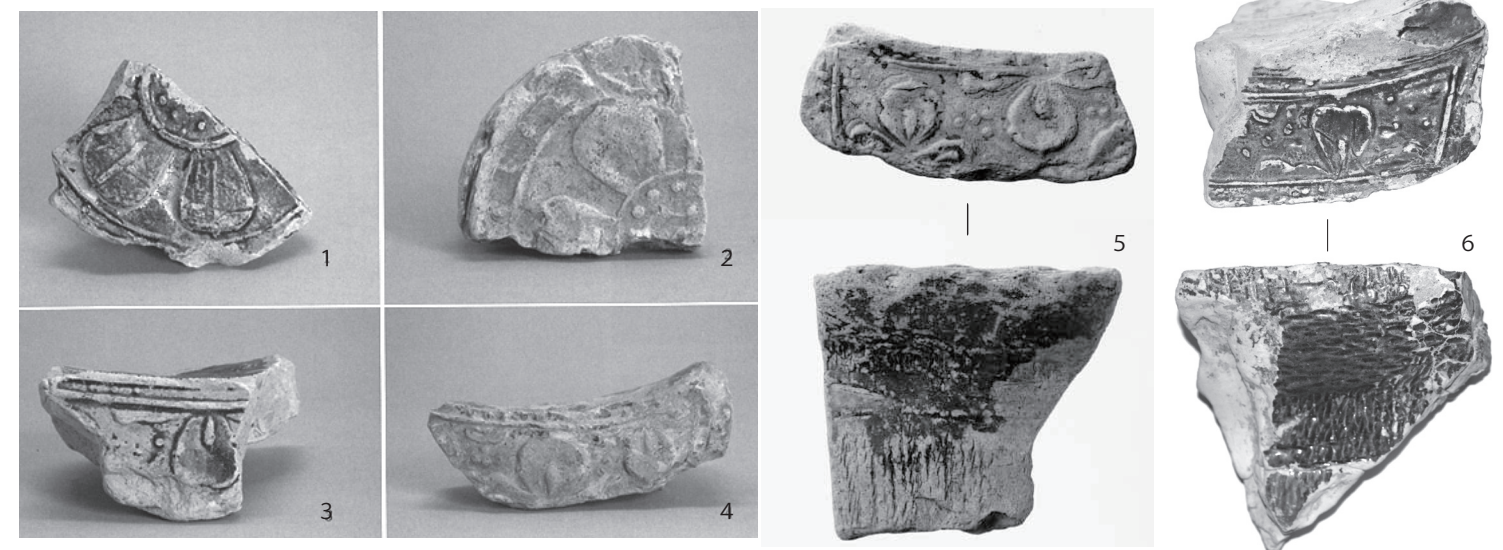


図 31 緑釉軒丸瓦・軒平瓦

1～4：北辺四坊六・七・八町跡出土、5：寺町旧域・御土居跡の氾濫堆積層出土、6：梨木神社境内の法成寺跡出土（画像提供：古代文化調査会）

